群教セ	E09 - 01
	平14.206集

対人関係をうまく築けない生徒に対する支援の工夫

―― 自己肯定感を高めるための面談をとおして ――

特別研究員　　小林 彦名　（沼田市立沼田東中学校）

≪研究の概要≫

本事例は、対人関係に悩みを感じている生徒に対して、解決志向アプローチやロールプレイを取り入れた面談を行うことで、自己肯定感を高めるための支援を行ったものである。本人を受容しながら、自分自身への気づきを促す面談を繰り返すことで、徐々に対人関係が改善するとともに、自己肯定感の高まりがみられるようになってきた。

Ⅰ　指導の方針

１　生徒に対して

○　受容的に接して、信頼関係を深める。

○　自分自身の行動や認識についての気づきを促す。

○　解決志向アプローチを取り入れた面談を実施し、自己肯定感を高められるよう支援する。

２　学級に対して

○　学級全体でどのように支援していくかを考えさせる。

３　家庭に対して

○　家庭との連絡を密にする。

Ⅱ　指導経過

○　エゴグラム

本人の自己理解を深めるとともに、今後どのような支援ができるかを考えるために、エゴグラムを使用した。

○　解決志向アプローチを取り入れた面談

不定期ではあるが本人の悩みや不安について聞き、今後の課題解決に向けた目標化を試みた。

○　二者面談

面談の中で、役割交換によるロールプレイを行って、変容を促そうとした。

Ⅲ　まとめと今後の課題

本人の現在抱えている悩みや、積極的に行動するために立てた目標に注目して、スモールステップによる小さな変容の積み重ねを図ったことは、有効であったと考える。また、役割交換によるロールプレイを実施したことはは、本人が自分を客観視できるだけでなく、新たな自己理解・他者理解を促すきっかけとなったと思われる。

人前で声を出すことなどに消極的だったが、授業の始業や終業のあいさつが大きな声で言えるようになったこと。周囲からの呼びかけに対して、返答ができるようになったこと。定期テストの目標の設定による、家庭学習への意欲的な取り組みがみられるようになったことなど、本人なりの意欲の高まりがみられるようになってきた。